

在シドニー総領事通信

第 43 回 リズモアと大和高田市：日豪姉妹都市第 1 号が目指すもの

令和 3 年（2021 年）6 月 30 日

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、6 月 26 日にシドニー大都市圏と周辺地域で 2 週間の外出制限令（stay-at-home orders）が発出されました。このような厳しい規制は、昨年の感染発生当初の規制以来初めてのことです。また、北部準州では、6 月 27 日にダーウィンと周辺地域で 2 日間の外出禁止令が発出され、その後延長されました。総領事館としても、領事メールの迅速な発出をはじめ、このような状況の変化にしっかりと対応する所存です。お気づきの点などありましたらお気軽に連絡ください。

このような状況になる直前の 6 月 18 日から 20 日まで、初めてリズモアを訪れました。リズモアは、NSW 州北東部の州境近くにある人口約 4 万 4 千人の地方都市です。サザンクロス大学のメインキャンパスがあり、豪州最東端のバイロン・ベイやクイーンズランド州都のブリスベンもすぐ近くです。

このリズモアは、戦後の反日感情が未だ強かった 1963 年に奈良県大和高田市と日豪姉妹都市第 1 号となり、日豪の和解に大きな役割を果たしました。同地で恒例行事となっているランタンパレードの機会に訪問し、リズモア市長やサザンクロス大学学長など関係者とお会いして、直接お話を伺うことができました。

今回の総領事通信では、リズモア訪問についてご報告しながら、リズモアが大和高田市との姉妹都市交流をはじめ日豪関係の発展に果たす役割について、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。



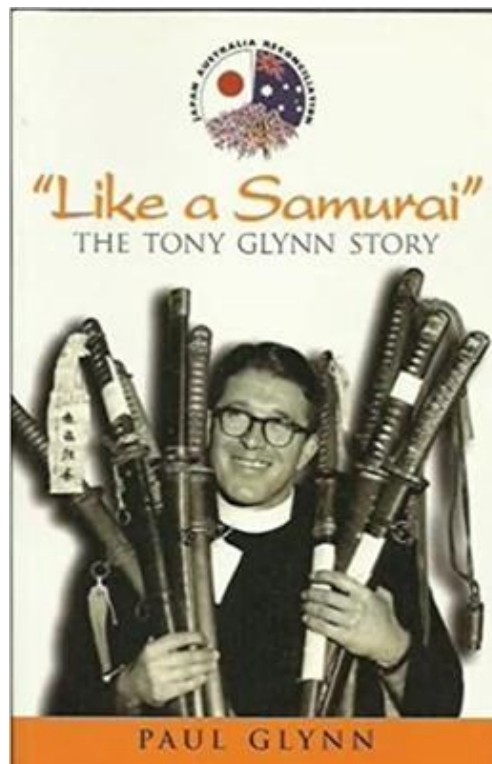
シドニーのマリスト教会地区に住むポール・グリーン神父との面会
(2021年6月15日)

●ポール・グリーン神父との面会

リズモアと日本を結び付ける最初の担い手となったのは、リズモア出身のマーズデン神父です。第二次大戦中に日本軍の戦争捕虜（POW）となり、泰緬鉄道建設で従軍司祭として厳しい経験をしました。その中で、日本との和解の推進に生涯を捧げることを決意し、豪州に帰国した後、1949年に日本に渡ります。

同じ高校（St John's College Woodlawn）の後輩にあたるトニーとポール・グリーン兄弟は、マーズデン神父と出会って大きな影響を受け、いずれも神父になって1953年と1955年に訪日します。

兄のトニー・グリーン神父は、奈良教区司祭として地元の福祉事業に取り組みながら、戦後の反日感情が厳しい中で、豪州での日本展の開催、豪州軍人が持ち帰った日本刀の返還事業、日豪双方の各地での仏教・キリスト教合同慰霊祭など、日豪の和解を推進するために様々な活動を行いました。多くの方に敬愛され、1994年に日本で68歳の生涯を終えた時には、葬儀に3日間で5000人が訪れました。



ポール・グリーン神父の著書
「長崎の歌」「サムライの如くートニー・グリーン物語」

弟のポール・グリーン神父は、奈良県大和高田市の高田カトリック教会に赴任しました。そこで、オーストラリアがもつ 60 以上の姉妹都市に日本の都市が皆無であることを知り、出身地であるリズモア市と大和高田市の間で姉妹都市提携を仲介し、1963 年に実現に至りました。また、長崎のキリスト教と原爆の歴史やトニー・グリーン神父の伝記など多くの本を執筆、出版しています。

ポール・グリーン神父は、現在シドニー近郊のハンターズヒルにあるマリスタ協会地区に住んでおり、今年 93 歳になります。リズモア訪問に先立って、6 月 15 日に同神父に初めて面会しました。国際連盟規約の人種差別撤廃条項や広島・長崎への原爆投下の歴史に対するお考えや、日本の歴史や文化に対する豪州人の理解を深めることが自分の生涯を通じての役割であるとのことのお気持ちを伺い、心からありがたいと思いました。

グリーン神父兄弟は、日豪関係が厳しい時代に、両国の和解の実現に人生を捧げました。今のすばらしい日豪関係は、両神父をはじめとする先人の努力の賜物だと感じています。



トニー・グリーン神父日豪センターでカーリン・サザンクロス大学学長、
サフィン NSW 州下院議員と（2021年6月18日）

●サザンクロス大学のトニー・グリーン神父日豪センター

6月18日、リズモアで最初に訪問したのは、サザンクロス大学のトニー・グリーン神父日豪センター（Father Tony Glynn Japan-Australia Centre）です。センターでは、カーリン・サザンクロス大学学長や地元のサフィン NSW 州下院議員はじめ関係者の歓迎を受けて、同センターが引き続き重要な役割を果たしていることを実感しました。

このセンターは、1999年に同大学文学部で日本語講師をしていたマクラレン温子氏が、大阪万博記念基金事業の公募を知り、日本センターを構想して大学当局と相談し、日本センター委員会を設置したことから始まりました。

当時、マクラレン温子氏は、リズモアのカトリック教会で、日豪和解の映画『愛の鉄道』を製作していた千葉茂樹監督とポール・グリーン神父に偶然巡り合い、この映画を見てグリーン神父兄弟の日本への深い愛に感動して、日本センターにトニー・グリーン神父の名前をつけたいと考えました。しかし、大阪万博記念基金事業の応募要件が半額の自己負担のため、即時の応募はかないませんでした。

そこで、サザンクロス大学音楽学部のアカペラ・グループ「イザベラ・ア・カペラ」の訪日公演による募金活動を企画しました。在京豪州大使館、在豪州日本大使館、大和高田市、日本各地の日豪協会、サザンクロス大学とその交流大学などの協力も得て、日本全国各地で4年にわたり公演が行われました。更に、リズモアとシドニーでは京都茂山家の狂言公演も行われました。これらを通じて必要な資金を確保し、2004年9月に大学内に「トニー・グリーン神父日豪センター」を設立することができました。マクラレン温子氏は、現在も大学の日本連携担当者・日本語講師として、同センターの運営や日豪交流活動に携わっています。



トニー・グリーン神父の記念品陳列棚
(2021年6月18日)

センター内には日本絵画や着物が展示され、広い畳のコーナーもあって、来訪者が日本文化を体験できるようになっています。

また、トニー・グリーン神父が日豪両国政府から受けた勲章や奈良市の名誉市民章、蔵書や新聞記事の切り抜きなども展示されており、同神父の長年の功績を偲ぶことができました。

このように、日豪和解に尽力されたトニー・グリーン神父の思いを受け継ぐセンターがリズモアの大学に設立され、同センターを拠点に日豪交流が現在も継続・発展していることを、本当に嬉しく思いました。



リズモアにあるグリーン神父兄弟の生家近くの教会
(2021年6月18日)

後刻、リズモアにあるグリーン神父兄弟の生家も訪れました。今は他の人が住んでいます、家自体は昔のままの由です。近くにある教会は戦前に建設されたもので、グリーン神父兄弟も通っていたであろうとのことでした。

戦後、日豪の和解のために尽力し、歴史をつくった人が育った場所を訪れて、自分が果たすべきことへの決意を新たにしました。



リズモア市庁舎にてエキンス市長、マークス副市長、クック市会議員、
サフィン NSW 州下院議員、赤岩 CLAIR シドニー事務所長と
(2021 年 6 月 18 日)

●リズモア市と大和高田市

6月18日午後、リズモア市庁舎を訪れ、エキンス市長をはじめ同市関係者に挨拶しました。堀内大和高田市市長、脇本両市友好協会会長からエキンス市長へのメッセージを手交するとともに、私からも、日豪姉妹都市第1号として長年交流を発展させてきたことに感謝を伝達しました。また、生け花インターナショナルのリズモア支部も長い歴史があり、会員の生け花を鑑賞させていただきました。

両市間の交流は、1963年の姉妹都市提携後、市民代表団の相互訪問から始まり、1985年からは毎年の学生の相互派遣、そしてスポーツ・文化交流や姉妹校交流、周年行事など幅広く展開しています。

新型コロナウイルスの影響で、昨年及び今年の学生相互派遣については中止となりましたが、2年後の60周年に向けてさらに交流を深めていきたいとのことです。



リズモア市長と豪日センター関係者との懇親会
(2021年6月18日)

同日の晩には、マクラレン温子氏の計らいで、エキンス市長及びトニー・グリーン神父日豪センター関係者が参加する懇親会が開催されました。

参加者の多くは訪日経験があり、日本での思い出やセンターの活動支援など、日本との様々な関わりについてお話を伺い、大変心強く思いました。また、リズモアについて、昔ながらの酪農や農業のみならず、音楽や芸術の振興を通じて若い世代が新たに流入していると知り、NSW州地方部の新たなエネルギーを感じました。

翌日の6月19日には、スミス・リズモア歴史協会会長とマクラレン温子氏の案内のもとで、リズモア地域博物館とリズモア地域美術館を視察し、この地域の産業・生活・文化の発展や先住民との共存の歴史について学ばせていただきました。

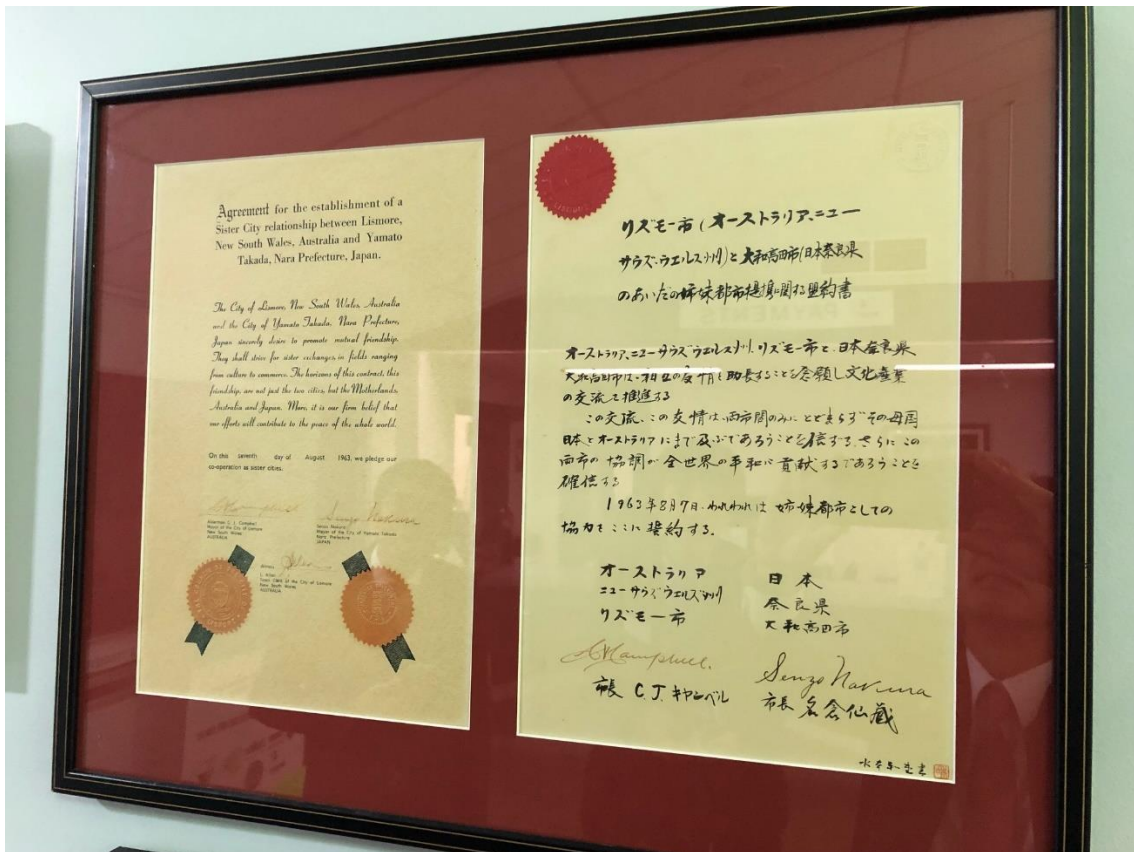


ランタンパレードでの「みくちゃん」
(2021年6月19日)

そして、6月19日夕刻にはランタンパレードに参加し、リズモア市が作った大和高田市のマスコットキャラクター「みくちゃん」のランタンを担いでコースを回りました。

ランタンパレードは、これまで市内中心部で開催されてきましたが、去年は新型コロナウイルスで中止、本年はスポーツ・スタジアム内で入場者数を制限しての開催となりました。それでも、午後から子供向けの様々なイベント・ブースや屋台が出店し、夜のパレードでは約50の大きなランタンが次々と紹介されて2周回り、最後に花火が打ち上げられる盛大な行事となりました。

リズモア最大の恒例行事に日本がこのような形で毎年参加し、コロナで往来が難しい中、今回は自分がその役割を担うことができたことを嬉しく思いました。



リズモア市と大和高田市の姉妹都市連携盟約書
(1963年8月7日署名、2021年6月18日撮影)

●日豪姉妹都市第1号が目指すもの

大和高田市のウェブサイトには、この初めての姉妹都市提携の意義について、以下のとおり説明されています。

「リズモア市と大和高田市の「姉妹都市提携に関する盟約書」には、両市が描く友好の姿が、次のように記されています。

『この交流、この友情は両市間のみにとどまらず、その母国日本とオーストラリアにまでであろうことを信ずる。さらにこの両市の協調が全世界の平和に貢献するであろうことを確信する』

盟約書でうたわれた友好の精神は、今も受け継がれ、現在では日本とオーストラリアの間で結ばれた姉妹都市の数は、100を超えています。」

この盟約書は、今もリズモア市庁舎のロビーに飾られています。グリーン神父兄弟から千葉茂樹監督、マクラレン温子氏、そしてリズモア市民の皆様へと受け継がれた日豪の和解と交流のバトンが、今後日豪双方で更に発展するよう、私もそのバトンを受け取り、多くの人たちに手渡していきたいと思えます。

リズモア・大和高田市の姉妹都市関係（在シドニー日本国総領事館）

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_ja/sister_city.html#nara

パウロ・グリーン著『サムライの如く：トニ・グリーン物語』（こどもの里、2009年）

<https://www.amazon.co.jp/dp/B08LVTSXJJ>

<https://www.eonet.ne.jp/~kodomonosato/book.html>

Paul Glynn (2008) *Like a Samurai; the Tony Glynn Story*, Marist Fathers Books

<https://www.amazon.com/dp/0958184429>

マクラレン温子氏インタビュー（日豪プレス・2019年1月）

<https://nichigopress.jp/column/imaikiru/176227/>

愛の鉄道：豪日に架ける（千葉茂樹監督、1999年制作、2004年DVD発売）

<http://www.ne.jp/asahi/omaneki/2000/aitetu.htm>

<https://ci.nii.ac.jp/ncid/BB10875182>

日豪姉妹都市50周年を迎えて（自治体国際化フォーラム2013年12月号）

http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_290/05_kaigai01.pdf

日豪初の姉妹都市提携にこめられた願い：両国民の「和解」に尽くした神父たち（自治体国際化協会（CLAIR）シドニー事務所）

<http://www.jlgc.org.au/wp-content/uploads/2013/02/JF-1-3->

[P10-%E6%97%A5%E8%B1%AA%E5%88%9D%E3%81%AE%E5%A7%89%E5%A6%B9%E6%8F%90%E6%90%BA%E3%81%AB%E3%81%93%E3%82%81%E3%82%89%E3%82%8C%E3%81%9F%E9%A1%98%E3%81%84.pdf](http://www.jlgc.org.au/wp-content/uploads/2013/02/JF-1-3-P10-%E6%97%A5%E8%B1%AA%E5%88%9D%E3%81%AE%E5%A7%89%E5%A6%B9%E6%8F%90%E6%90%BA%E3%81%AB%E3%81%93%E3%82%81%E3%82%89%E3%82%8C%E3%81%9F%E9%A1%98%E3%81%84.pdf)

（以上）